薙刀山～野伏ヶ岳スキーツアー

２００８年３月２１日（金）夜～３月２２日（土）
メンバー：Ｍ野、Ａ名、Ｔ江、Ｔ
天気：快晴

前夜、白鳥の道の駅にて車中泊。Ａ名さんは、薙刀・野伏は走破済みとのことで、単身、超マイナーな大山・杉山へ向かう。白山中居神社駐車場(8:00)より橋を渡るとすぐに雪道林道となり、ツボ足からシール登行で、和田山牧場台地へ上りつく(10:00)。

眼前にピラミダルな野伏ヶ岳が堂々とそびえ、滑降予定の中央ルンゼは最上部に亀裂がありちょっぴり険悪な様相。右方はるかに見える薙刀山目指し、蛇行する小川を右に見て、雪原を進み、野伏ヶ岳北東尾根裾を回りこみ、一旦、沢へ降りる。あちこちのデブリ・源頭の雪庇が気になっていたが、ちょうど良い具合に対斜面にシールのトレース発見。喘登し、薙刀平に上りつく(12:15)。一旦、主稜線に上がり、雪庇の尾根を、延々と辿り、薙刀山へ(13:20)。

我々、３人だけの静かな山頂だ。南西は、奥美濃から、白山連峰、石徹白、北東は、北アルプス、御岳、乗鞍までの大パノラマを満喫する。

コーヒーでも沸かしてゆっくりしたいところだが、時刻も遅いので、シールを外し、野伏岳とのコルまで、雪庇下を巻くように、一気に滑り込む。再度、シールで野伏ヶ岳まで喘登(15:00)。こんな時間なのに、牧場のテント村の住人が十数人、続々と登ってきた。

尾根を東へ少し滑り、恐る恐る中央ルンゼを覗き込む。シュプールが多数見られたし、ルンゼとは言っても名ばかり、急傾斜なのは滑り出しの２００ｍほどだけ、緩んだザラメで滑落の心配はない。斜面に飲まれ気味の Ｍ 野さんを励まし、左下方の亀裂に注意しながら、スタート！(15:40)。

写真を撮り合いながら、眼下の牧場に向かって降下してゆく。私は、登りの疲れが太腿に来ているせいか、どうしても消極的な滑りになってしまう。それにくらべ、若いＴ江さんの滑りは、勢いがある。Ｍ 野さん、もう少し大胆に滑りましょう。牧場まで降り、足跡だらけで滑りづらい林道をどんどん滑って、駐車場へ。ふきのとうを一杯ぶらさげた Ａ名さんがお出迎え。ウィングヒルスキー場の「満点

の湯」に漬かってから、帰路についた。